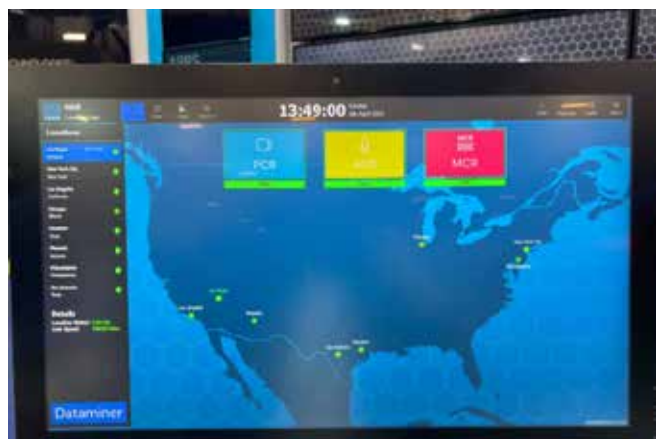


◆オタリテック：Skyline × LAWO 最先端技術コラボ：次世代メディア運用を支えるスマート・リソース・スケジューリングについて



ドイツの放送インフラ技術イノベーターLAWOと、変革的なxOpsプラットフォームDataMinerを手がけるベルギー拠点のSkyline Communicationsは、NAB Show 2025において、共同の技術コラボレーションを実施しました。このデモでは、放送局におけるリソース管理の可能性とその実現に必要な要件が、実機を通じて紹介されました。



EBU（欧州放送連合）および北米をはじめとする世界各地のメディアファシリティが主導する「ダイナミック・メディア・ファシリティ」イニシアチブの勢いが加速するなか、放送の未来は、ハードウェアに依存しないプロセッシングアプリケーションを動的にプロビジョニング（割り当て）できる仕組みに集約されていくことが、確かなトレンドとして定着し始めています。

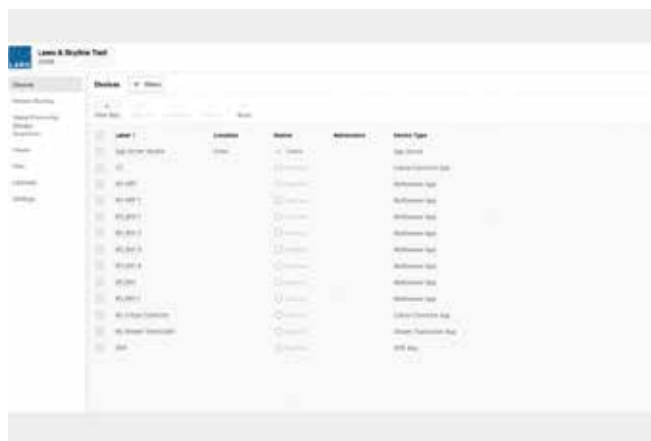
これにより、オペレーターは利用可能なコンピュータリソース（演算能力）を技術的に可能な限り効率的に活用できるようになります。

Skyline CommunicationsとLAWOは、Lawo HOME Appsのライフサイクルを管理するための自動化されたスケジューリングおよびリソースプロビジョニングツールを紹介しました。

「まだ初期段階ではありますが、私たちはこのコラボレーションが、ダイナミックリソースを高度に自動化された効率的な方法で管理す



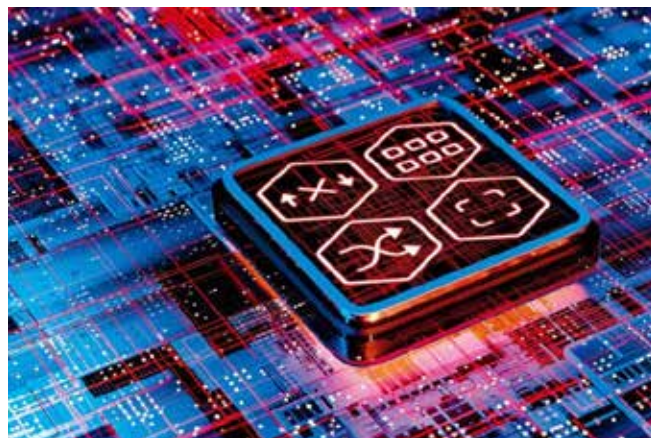
る道を切り開くと確信しています。DataMinerは、HOME Appsの開始、停止、設定の自動化だけでなく、利用可能なHOMEクレジットを追跡し、未来のタスクに予定されているHOME Appsが常に十分なライセンスクレジットを持つように管理します」とSkyline CommunicationsのマーケットディレクターThomas Gunkel氏は述べています。



「ライブプロダクションのためのソフトウェアベースのシグナルプロセッシングの登場により、メディアファシリティはプロダクションセットアップを動的に変更する力を手に入れました」

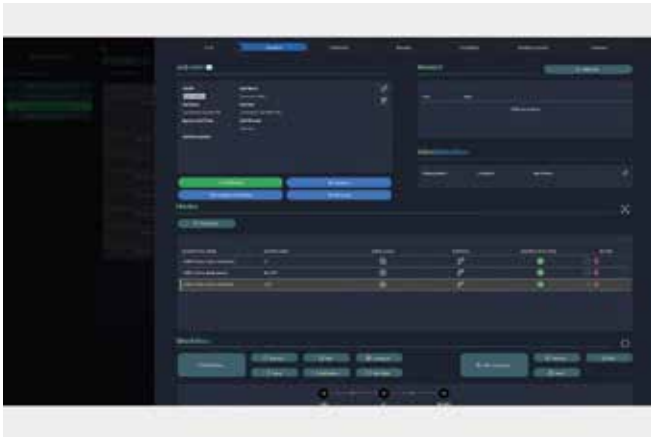
と語るのは、LAWOのクラウドおよびインフラソリューション担当シニアディレクター、Axel Kern氏。

「ダイナミック・メディア・ファシリティのセットアップのポテン

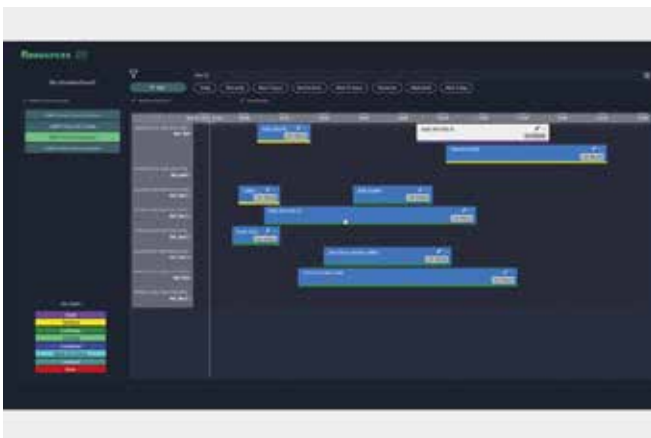


シャルを最大限に活用するためには、処理アプリケーション、ライセンス、CPU、ネットワーク容量の提供を完全に自動化するオーケストレーションが不可欠です」

NAB Show 2025 で は、Skyline Communications の mediaOps ソリューションを基盤としており、現在および未来の処理リソースの利用状況を追跡し、時間をかけて予定されたアプリケーションリクエストを監視します。これにより、直感的なユーザーインターフェースを通じて、すべてのインフラレイヤーのシームレスで調和のとれた運用を提供しました。



事前に予約されたイベントに対して、このソリューションは、リソースプールから HOME Apps を割り当てると同時に、HOME ライセンスが十分に確保されているかを確認し、リソースの競合を回避します。Skyline Communications と LAWO は、アプリケーションベースのダイナミックメディア施設に対して直感的に設定可能で、自動化された、信頼性の高い構成変更をトリガーするスケジューリングシステムに、放送業界の専門家が何を期待しているのかを学びながら、自社の提案を披露しました。



問い合わせ先：LAWO 社製品に関するお問い合わせは
<https://lampchat.io/ddzfqpzffnk>

◆ ADOBE：コンテンツ認証イニシアチブ (CAI) にパナソニックが参加



コンテンツ認証イニシアチブ (CAI) は、4,500 以上のメディアおよびテクノロジー企業、非営利団体、クリエイター、教育者、その他多くの組織や人々がデジタルエコシステムの信頼と透明性の構築を目指して協力しているメンバーとして、パナソニック株式会社を迎えることができ、大変嬉しく思っています。

パナソニック エンターテインメント & コミュニケーション株式会社 イメージングソリューション事業部 事業部長 津村敏行氏は次のように述べています。

「私たちは、デジタルコンテンツが日常生活の中で重要な役割を果たしていることを認識しています。誰でも簡単にデジタルコンテンツを作成・編集できるようになった一方で、改ざんによる誤情報の拡散などの社会問題も生じています。特に、ニュース報道などのコンテンツ制作に関わる方々は、写真や映像素材の真正性の確認に苦労されています。当社としては、CAI に参画することで、デジタルコンテンツの信頼性を確保し、ユーザーが安心してコンテンツを生成し、情報を利用できる環境を提供することを目指していきたくと考えています。この取り組みは、当社の企業理念である『一步先行く映像・音響ソリューションで、安心・感動を共に創る最高のパートナーになる。』とも一致しています。」

CAI のアドボカシー兼教育責任者であるサンティアゴ ライオン (Santiago Lyon) 氏は次のように述べています。

「パナソニックを CAI コミュニティに迎えることができ、大変嬉しく思います。同社は、絶え間ないイノベーションへの貢献を果たしながら、デジタルカメラやミラーレスカメラ、更に民生用から放送用までの幅広いカメラレコーダーを提供し、最先端のテクノロジーで業界を支えてきました。業界をリードするツールにコンテンツ認証を付与することは、イノベーションを進める上で必要なステップとなります。」

この記事は 2025 年 4 月 8 日 (米国時間) に Content Authenticity Initiative より発表された Welcoming Panasonic to the CAI の抄訳です。

◆池上通信機：メディカルデジタルレコーダー MDR-600HD-A を販売開始

-従来品の使いやすさ・安定性をそのままに 録画容量倍増、ネットワーク機能標準搭載-



池上通信機株式会社は、新たにメディカルデジタルビデオレコーダー「MDR-600HD-A」を2025年4月より販売開始します。従来機種と比べ内蔵HDDの容量を1TBに倍増し、これまでオプションであったネットワーク機能を標準搭載するなど、医療現場での使い勝手をより向上させる。希望小売価格は570,000円(税別)

「MDR-600HD-A」は、発売以来、好評の「MDR-600HD」の機能、性能を継承した、医療現場で使いやすく安定してご使用できるメディカルビデオレコーダー。映像入力はアナログからデジタルのFull HDまで対応しており、前面パネルのボタンをワンタッチするだけで簡単に記録の開始/停止ができる。液晶モニターを内蔵しており画像の確認や、レコーダーのメニュー表示が可能。

内蔵HDDの容量を500GBから1TBへ増量したことにより、装置本体での録画時間が倍増した。加えて、従来ではオプションとしていたネットワーク機能を標準搭載した。昨今、サイバーセキュリティの観点からUSBデバイスの使用が制限されるケースが増えていますが、ネットワーク機能を活用することで、USBデバイスを使用せず、LAN接続を通じてFTPサーバーやCIFSサーバーに直接、同時記録することが可能。また、記録済みの画像ファイルをフォルダー単位で転送(コピー)することもできる。

「MDR-600HD-A」は、4月8日～11日に上海で開催される第91回CMEF(中国国際医療機器展)2025春 および4月17日～19日に東京国際フォーラムで開催される第129回日本眼科学会総会併設器械展示会に出展する予定。

◆「当院で採用を検討したい」「デモンストレーションを受けてみたい」等ご要望は当社までお問い合わせください。

<https://www.ikegami.co.jp/enquete/medical/>

◆医療現場に寄り添った映像システムをご提案する当社 Medical Solution ページの website はこちら。

<https://www.ikegami.co.jp/medicalsolution/>

◆池上通信機：西日本旅客鉄道株式会社様に最新の24型高輝度モニターを用いたITVシステムを納入

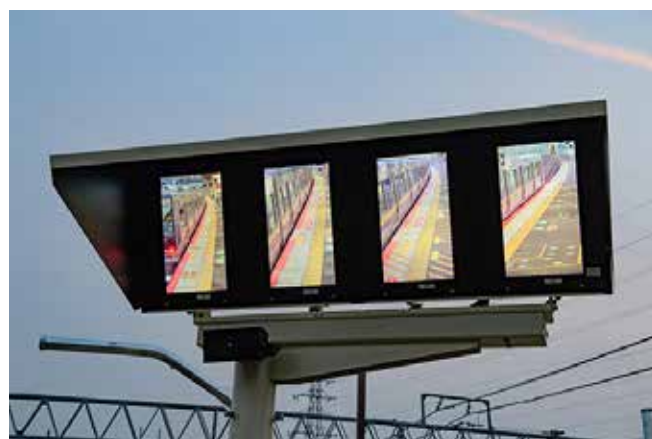
～高感度フルHDカメラと縦型モニター4連設置で視認性向上を実現～

池上通信機株式会社は、西日本旅客鉄道株式会社(以下、JR西日本)へ、最新の24型高輝度・高精細モニター「FCM-E2470HD」を用いた車掌用ITVシステムを納入した。本システムは2024年11月からJR京都線桂川駅で稼働を開始している。

JR京都線桂川駅は、最大12両編成が停車するカーブの厳しいプラットホームのある駅です。今回納入したシステムでは、24型モニターを縦型表示にし、モニターハウジングに4連横並びで設置することにより、長編成の列車を連続的に視認することが可能となった。4連横並びでの設置は、JR西日本様京都地区で初の試みとなる。業界最高水準*の最高輝度1600cd/m²を誇る、明るく高精細な24型モニターを縦型に配置することで上下方向の表示エリアを拡大している。列車側面とプラットホームの黄色い点字ブロック間を縦方向に鮮明に映し出すことで、視認性の高い安全確認を実現した。また、監視用高感度フルHDカメラ「ISD-240HD」との組み合わせにより、昼夜問わず屋外で使用される映像システムとして、乗降客の安全確保に寄与している。

JR西日本様では、「鉄道の安全性向上」に向け、様々な安全対策を推進されており、当社においても、引き続き鉄道運行の安全・安心を支えるシステムを全国の鉄道事業者様にご提案し、高精細な映像や、操作性とメンテナンス性の向上を実現した製品、および長期間に渡る保守サポートを提供してまいります。

*:2025年2月現在 当社調べ



JR京都線桂川駅1番線モニターハウジング

機器構成

- ・24型液晶ワイドカラーモニター FCM-E2470HD 4式
- ・4連縦型モニターハウジング MY-KW244T 1式
- ・監視用高感度フルHDカラーカメラ ISD-240HD 4式
- ・カメラハウジング TY-587 4式

◆ソニー / ソニーマーケティング：高い測距性能と世界最小・最軽量の筐体を両立したロボットやドローンへの搭載が可能な LiDAR デプスセンサーを商品化

～計測精度や距離分解能、測距レンジに高い性能を発揮する「Direct Time of Flight 方式」を採用～



< LiDAR デプスセンサー『AS-DT1』 >

ソニーは、小型の産業用カメラ XC シリーズの開発で培った小型化技術やレ

ンズの光学技術など、ソニーの持つさまざまな技術や知見を活用し、高い測距性能と、世界最小・最軽量^{※1}（幅 29 mm × 高さ 29 mm × 奥行 31 mm^{※2}、質量 50 g）の筐体を両立する LiDAR（ライダー）デプスセンサー『AS-DT1』を商品化する。

本機は、計測精度や距離分解能^{※3}、測距レンジにおいて高い性能を発揮する「Direct Time of Flight (dToF) 方式^{※4}」の LiDAR デプスセンサー。SPAD (Single Photon Avalanche Diode)^{※5} センサーを組み込んだ独自開発の dToF 測距モジュールを採用し、距離の計測に複数の測距点を用いることで、縦、横、奥行の 3 次元での距離を正確に測定することができる。

また、『AS-DT1』は他の測距方式では検知が難しい、低コントラストの被写体や反射率の低い被写体までの距離を測定することもできます。このため、人や什器といったさまざまな対象物が想定される店舗などの環境においても、正確に距離を測定することが可能。対象物までの距離を屋内外問わず正確に測定できることに加え、小型軽量かつ、金属製の堅牢な筐体を実現しているため、飲食店の配膳ロボットや倉庫の自律走行搬送ロボット、点検や調査で活用されるドローンといったさまざまな機器に組み込むことで、活用の範囲が広がる。

※1：屋外晴天下で 10m 以上の測距レンジを持つ 3D LiDAR として（モジュールを除く）。2025 年 4 月時点。ソニー調べ。

※2：突起部除く。

※3：複数の対象物の微小な距離の違いを認識する能力。

※4：被写体へ照射した光が反射して戻って来るまでの時間を測定することで距離を算出する測距方式。

※5：入射した 1 つの光子（フォトン）から、雪崩（アバランシェ）のように電子を増幅させる「アバランシェ増倍」を利用することで高感度を実現する電子素子（ダイオード）。

< 想定アプリケーション >

< Direct Time of Flight 方式の原理 >

人手不足やインフラの老朽化などの社会問題が顕在化する中、人の暮らす環境のより近くでロボットを活用したいというニーズはますます高まっている。ソニーは、本機の商品化により多様な業界のニーズに応え、安心・安全に社会と共存できるオートメーション化をサ

ポートする。

●『AS-DT1』の主な特長

1. 高い測距精度と距離分解能

SPAD センサーを組み込んだ、独自開発の dToF 測距モジュールを採用することで、高い測距精度と距離分解能^{※3}を実現している。10 m の距離からの計測で、屋内外ともに ± 5cm^{※6} の誤差で測距が可能。

また、dToF 方式以外の測距方式では難しい、さまざまな対象物までの距離を正確に測定することが可能。低コントラストの被写体や反射率の低い被写体、宙に浮いた対象物なども正確に測距可能なため、多様な対象物が混在する店舗や倉庫などの環境で使用されるロボットへの組み込みにも活用できます。

※6：数値は暫定数値であり、最終仕様と異なる場合があります。

商品名：LiDAR デプスセンサー 型名：『AS-DT1』

発売日：2026 年 春

2. 長い測距レンジ

屋内で 40 m、真夏の晴天の屋外（10 万ルクス想定）で 20 m^{※6} の遠距離からでも正確な測距が可能です。屋外でも遠距離から正確な測距が可能のため、橋梁や高速道路、ダムといった、人が近づきづらい対象物の測距にも活用できる。

3. 小型軽量かつ堅牢な筐体

幅 29 mm × 高さ 29 mm × 奥行 31 mm^{※2}、質量 50 g の、世界最小・最軽量^{※1}を実現しています。筐体にはアルミニウム合金を採用することで、軽量化と堅牢性を両立しています。デプスセンサーを組み込めるスペースが限られた自律移動ロボットや、重量が飛行距離に影響を与えるドローンなど、さまざまな機器に組み込みやすい筐体です。



< 筐体イメージ >

主な仕様や詳細については、商品サイトをご覧ください。

<https://www.sony.co.jp/Products/ISP/products/model/as/AS-DT1.html>

なお、『AS-DT1』は 2025 年 4 月 23 日（水）から東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催される、「Japan DX Week」のソニーブースに出展します。

※ 本プレスリリースに記載の仕様は発表日時点の情報です。最終仕様と異なる可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

※ 「ソニー」および「Sony」、並びにこのプレスリリース上で使用される商品名、サービス名およびロゴマークは、ソニーグループ株式会社またはその関連会社の登録商標または商標です。その他の商品名、サービス名、会社名またはロゴマークは、各社の商標、登録商標もしくは商号です。

※ お客様からのお問い合わせ先：ソニー（株）/ソニーマーケティング（株）お問い合わせフォーム URL：<https://www.sony.co.jp/Products/ISP/contact/inquiry.html>